

会議録

会議の名称	西東京市総合戦略策定に係る有識者懇談会・第4回会議
開催日時	平成27年10月19日（月曜日）午後0時30分から午後2時30分まで
開催場所	田無庁舎3階 庁議室
出席者	委員：有賀委員、大河内委員、小関委員、近藤委員（代理：西委員）、坂口委員、徳丸委員、土堤内委員、長島委員、成田委員、和田委員 事務局：飯島企画部長、児山企画部主幹、佐野企画政策担当主査、長塚企画政策担当主査、海老澤企画政策担当主査、支援事業者（株式会社 インテージリサーチ）
議題	議題1 開会 議題2 前回会議録の確認 議題3 総合戦略素案に関わる追加データ資料について 議題4 西東京市総合戦略（中間のまとめ）（案）について 議題5 その他
会議資料の名称	（配布資料） 資料1 西東京市総合戦略（中間のまとめ）（案） 資料2 中間まとめ案関連データ集 資料3 まちづくり市民ワークショップまとめ 資料4 若者・近隣市ウェブ調査結果 資料5 第3回策定懇談会会議録 （参考資料） 資料1 各種調査追加分析データ
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>○小関座長： 本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。 開会前に、本懇談会の開催回数について事務局より説明がございました。</p> <p>○事務局： 今後、庁内での検討・調整等を踏まえ、中間のまとめを作成いたします。皆様のご了承をいただければ、戦略として最終的にまとめる前、具体的には、年明けの1月頃になると思いますが、本懇談会をもう1回追加して開催させていただきたいと考えています。 お忙しいと存じますが、ご協力いただけますようお願いいたします。</p> <p>○全委員： 了承</p> <p>議題1 開会</p> <p>○小関座長： これより第4回の会議を開催させていただきます。本日は傍聴の方はいらっしゃいません。</p> <p>議題2 前回会議録の確認</p> <p>○小関座長：</p>	

それでは、議題の 2 に入ります。会議録については、事前に皆様から発言箇所の訂正等のご連絡をいただき、反映したものを本日お配りしています。お気づきの点があれば発言をいただきたいと思います。

○小関座長：

この場で無いようでしたら、後日、ご連絡いただき修正等の後に確定とさせていただきます。

議題 3 総合戦略素案に関わる追加データ資料について

○小関座長：

それでは、議題の 3 に移ります。総合戦略素案に関わる追加データの資料について、事務局より、説明をお願いします。

○インテージリサーチ：

資料 2、3、4 に沿って説明

○小関座長：

資料の内容についてご質問等あればお受けしたいと思います。

○全委員：

意見なし。

議題 4 西東京市総合戦略（中間のまとめ）（案）について

○小関座長

それでは、議題 4 に移ります。西東京市総合戦略（中間のまとめ）（案）について、事務局より、説明をお願いします。

○事務局：

・資料 1 に沿って説明

○小関座長：

事務局が説明した中間のまとめについて、ご意見をいただきたいと思います。

○西委員：

基本目標 2 の「健康・安心・快適にくらす」と、基本目標 3 の「地域に根ざした産業が育ち、まちに活力」に関連することですが、まず A3 の工場立地動向調査、立地件数の資料は平成 7 年から平成 26 年の全国県別での新規企業立地動向の数字になっています。東京都は他の県に比べると新規の立地が非常に少なく、新たに立地する件数が少ないということは、企業が外に出て行かないようにすることが必要だと思います。それから起業創業の支援で、新しい産業の創出が、法人税収による安定的な財源確保には必要なのではないかと考えています。市内の企業に残ってもらうための施策は、戦略の中で何か考えていますでしょうか。

○事務局：

現時点では、企業の引き留め誘致等についての施策等はありません。

○有賀委員：

中間まとめで気がついたことをいくつかお話しできればと思います。24区と北多摩との両方の側面を持っているという特徴が資料にあります。全体的に北多摩5市の一員という表現がどうしても強く、24区の中では下の方だからもうちょっとがんばれよというところを出さないと、北多摩5市の1位で安心してはいけないと思いました。ポテンシャルの地図は23区と北多摩の間の境界線を分かりやすく太くした方がいいと思います。アクセスの所では東西線が入っていませんし、地域の約8割というのは、花小金井駅と武蔵境駅が入っていると思うので、その辺の注釈も追記が必要だと思います。それから、基本目標3の3-1の「まちの魅力やポテンシャルがあると感じさせることで」の箇所は、表現を変えた方がいいと思いました。

○成田委員：

資料2 ページ目の、西東京市の第2次総合計画の戦略プランになるというのは、非常にいいキーワードですが、何が戦略プラン、アクションプランなのかということが見えていないと思います。第2次総合計画の大きな柱を、8ページに書いてあるような基本目標体系という形で、再編して分かりやすくするというのはいいのではないのでしょうか。面白いと思った部分は基本目標4の「いいね」、「ほっ」、「ぱっ」というところです。西東京市の第2次総合計画は非常に総合的でコンプリートされていますが、もうちょっとピックアップして分かりやすく実施するために、こういう表現を用いることは、アクションプランとしての特徴になると思います。

また、第2次総合計画を今の時点でもう少しかみ砕いてやるためにはどうするかが、加速させるためのアクションプランでしょうし、西東京を24区と北多摩という2つの中で見ることで特徴を浮き彫りにするのも、1つの特徴になるのかなと思います。前にお話があったM字カーブですが、これは今、日本全体では、ほとんど解消傾向にあります。その中で逆にM字のカーブが深くなっているとすれば、そこはひとつの基幹プロジェクトとして解消しようということもあると思います。市民も発信するというお話がありました。行政だけではなく市民も新しい媒体等を使ってやりましょう、といったことが、今までの計画との違いとなるのかなと思います。国の計画では地方への新しい人の流れを作るというのがあっても、我々はそういうことは考えていませんということも言っているのではないかと思います。

参考資料1の4ページの平成26年度は、社会増に転じたということですか。

○インテリサーチ：

そうです。プラスマイナスで見るとプラスになっているということになります。

○成田委員：

20代から30代あたりが逆に転入増になったと書いてありますが、今までの議論の前提と推論をもう一度組み立て直さなければならぬと思います。これまでは社会増減、自然増減がマイナスの方に入ってきて更に進むという話があり、前提認識を議論しなければならぬと思います。

○和田委員：

1ページにある「戦略の位置づけ」は、第2次総合計画との関連についてもまとめていますので、表題にも加えた方がいいと思います。また、今回の戦略としての位置づけは何かということが、もう少しはっきりと明記される必要があると思いました。

6 ページに戦略の基軸が掲げられていますが、点線で囲った部分こそが基軸なのでしょうか。囲った部分の下に推進にあたっての方向性や共通の視点が書かれています。この部分は、何を言いたいのかよくわかりません。6 ページに「推進にあたっての方向性」が3点挙げられています。基本目標の体系の柱は4つありますので、これらは対比させた方が分かりやすくなると思います。全体を貫く視点として情報発信の問題や発想の転換などが横串にあるという考え方は、理解できます。

推進にあたっての方向性1で、「多世代の活力をいかにするための応援をする」とあり、若い世代と高齢者について記述されていますが、次の基本目標体系では、柱立てが1と2とに分かれています。6 ページの方向性も、若い世代に関することと、多世代の活力、健康、安心というような項目とに分けた方がわかりやすいのではないかと思います。戦略プランとして位置づけるということですが、第2次総合計画との関連性のみ掲載されていますので、これでは誤解を受けやすいと思います。内容とタイトルが合っていないのではないのでしょうか。

○土堤内委員：

先程、成田先生のお話にあった、転入超過に転じたことは、事務局の説明にもあったように、例えば大規模なマンションが1個できたら大きく変動するので、もう少し長期的に見る話かと思えます。あくまでも今日の参考資料の位置づけだと思えました。

それから、3つ申し上げたいことがあります。「はじめに」という段落がありますが、だいたいの方は「はじめに」くらいしか読みません。だからまずここを読みたいと思わせることがとても大事だと思います。例えば第2パラグラフで、2020年にピークが来てその後はこうなりますと言った時に、現在いくらで、2020年のピークの推計値がいくらで、それが2040年にはこう減りますという具体的な数字が入っていれば、こんなに減るのか、じゃあ後ろを読んでみようかというように少しはなるのではないかという気がします。最後の結果の数字だけではなく、現在とピーク値を具体的に入れたらいいのではないかと思います。

2点目は、随所に都心への交通アクセスの良さが出てきますが、高齢化や人口減少の中で、本当にいつまでも都心へのアクセスの良さがメリットでいられるのかという思いがあります。例えば今日いただいた転出状況を見ても、どちらかと言えば西東京市よりも西側に転出しています。もっと安い所とか自然豊かな西側に動いているという読み方もできるように思います。あまり都心へのアクセス性の良さを前面に出すよりも、むしろ西東京市の中の域内交通の移動のしやすさみたいなものが、これからの西東京市での生活に大きなメリットを持つという表現にした方が説得力があるのではないかと思います。具体的な施策として、域内の自転車ネットワークの充実とか、そういったものを具体的に挙げていったらどうかと思います。

3点目は、戦略の基軸、愛着のまちづくりはとてもいいと思います。都市経営を考えた時に、市民をどう位置づけているかという問題があります。つまり市民は行政サービスのユーザーで、その満足度を高めるということは1つあると思います。ただ、もう1つの大事な視点は、企業経営と比較してみるとよくわかります。企業は物を売ってその顧客がいます。企業には株主がいます。都市経営を考えた時に、都市の株主は誰かという、それは市民になります。つまり納税者です。市民が納税者としてどう満足するかという満足度、これは行政サービスの満足度と同等にとっても大事ではないかと思います。それが高まれば市民はその市に対する愛着が湧くような気がします。前にまちづくりの勉強会をやった時に、「いいまちってどういうまちなのか。」を質問したら、「税金の払い甲斐があるまちだよ。」と言った人がいます。それを聞いた時に、本当にそうだなと思いました。どうしたら西東京市は税金の払い甲斐があるまちだと市民が認識するかということになります。参考になるのは、市川市の1パーセント支援条例だと思います。市民

税の 1 パーセントを自分の意思で、ある分野に持って行ける。出したお金の使途がはっきりしているということは、出し手にとってすごい満足度があります。税金も仮に 1 パーセントでもいいから、西東京の子育て支援に役に立っているとか、そういう見える化のようなことをすることによって、西東京市の納税者の満足度が上がると思います。それを裏返すと、ひとつのリトマス試験紙になって、市にとっては市民が何を望んでいるか、そこから見えてきます。そういう形で納税者の満足度を高める仕組みみたいなものを入れることによって、愛着まちづくりが顧客と同時に、納税者としての満足度を高めることにとても繋がるのではないかと思います。そういう視点を入れていただくと、愛着のあるまちづくりのサークルのようになるのではないかと思います。

○成田委員：

ふるさと納税で西東京市は、寄付額がどのくらいで、プラスマイナスはどうなっていますか。

○事務局：

正確な数字は持ち合わせておりませんが、控除される額の方が多い状況になっています。

○成田委員：

国はふるさと納税も今回の総合戦略でやりましょうということなので、逆手に取って西東京市においては市川市の 1 パーセント版のふるさと納税、地域納税でもいいけれど、そういう仕組みを取り込んで、よりきめ細かな施策をやり出すというのを、アクションプランの特徴のひとつとしてやったらいいと思います。

○徳丸委員：

9 ページ、次の世代が将来を描けるのところがすごく気に入っています。1-2 には子育て世代が輝く環境づくりとあります。子育て世代とは、何の世代なんだろうと思います。たいてい世代は年齢で区分しますが、実際に資料に出てくる話は世帯で、子育てをしている家単位の話だと思います。年齢的には子育て世代だけれど、子育てに関わっていない人で就業している人も大勢います。そういう人までまとめて面倒を見るのではなく、子育てをしている人に対し、施策でケアを加えますよということだと思います。子育て世代の負荷を軽減し、ということであれば、子育て中の負荷を軽減しとした方が良くと思います。おじいちゃんおばあちゃんと同居なさっているお家では、孫と一緒にどこかに出かけられるよという情報が入りやすくなると、いいと思います。子育て広場に行った時に、おじいちゃんおばあちゃんが知らないことがすごく多い。このおじいちゃんたちにどうやって情報を届けることができるのかと考えます。世代で切るのではなく、世帯か何かで切らないと届かないと思いました。その意識で見ると、子育てをしていないけれど一般的に子育て世代と言われる人は、あまり資料の中で言及されていないと思います。30 代男性で、独身で結婚する気がない人はあまり関係ないと思いましたので、特定した方がいいのではないかと思います。

○大河内委員：

産業の育成というところで 1 つ言及したいと思います。創業支援センターで今まで創業支援や応援をした業種を見ると、サービス業が 100 パーセントです。保谷駅の南北の再開発、東伏見の再開発で入ってきた企業もサービス業が 100 パーセントで、これだけ地価が高くなると、工場建設の誘致は難しいと思います。1 パーセントの市民税の使い方ということもありましたが、今、西東京市内は生活保護の世帯が相当多くなっています。

国民健康保険も一般会計から相当出している財政状況を考えて、今は難しいのかなと思います。

私は商店街の会長をやっていますので、色々なイベントをやると、元気な高齢者やリタイアした人たちから何かお手伝いしたいという問い合わせがよくあります。その人たちは西東京市内のどこに相談したらいいか、なかなかわからないのです。結局商店街の会長の方に来るけれど、そういった元気な高齢者が生き生きして暮らしていて、また地域でボランティア等をやっていると、その後ろ姿を見て、若い人も西東京市にこれから住んでみようという気になってくるのではないかと思います。また、西東京市役所内、できれば産業振興課の中に観光課を作って、映画監督がこういう場所が欲しいという時に即対応できるようになるといいと思います。ひとつの手段として、フィルムコミッション観光もやってみてもよいのではないかと思います。

○長島委員：

資料の3から4ページの課題の中に、多彩な市民活動や地域活動という言葉があります。非常に豊かですよ、いいですよという表現をされていますが、実際にそうなのか疑問に感じています。多彩なものはあるけれど、それをどこに相談したらいいかわからないとか、ネットワーク力や活用、連携、協働といったことがされていないのではないかとこのことを課題に入れたらよいと思いました。

また、予算の話が出ていましたが、最終的にお金がないのだから、お金のないことが課題だと示してはダメなのではないでしょうか。財政が厳しいからどうしていきましょう、知恵を出さしかないですよということをしっかり書いてもいいと思います。他の市でもそういう点は記載されていない。でも、そこがないと、だから何をしようという気にならなくて、市から無尽蔵にお金が出てくると思われていると良くないと思います。

5ページ、ポテンシャルの部分はいらないと思いました。特徴の所に書いてあることを2度書きしているだけなので、不要だと思います。

6ページは同感の所がたくさんありますが、基軸なのか疑問があります。発展という言葉がありますが、このまちは発展しなくてもいいよという話が、これまでの議論や意見、資料などから出てきていたと思います。少し田舎でいいという切り口と発展という言葉はどうすべきか、その議論は少しあった方がいいという気がします。

7ページの共通の視点の中で、お金はないが知恵のある市民がいらっしゃることを考えると、やはり協働とか市民力を活用させていただき、市民が主軸になっていくといった視点を出してもいいと思います。

7ページの2の2のところ、財政面でのバランスを図りつつという言葉が出ています。公共系の施設の見直しは、どこかに書いた方がいいと思います。このことはすごく重要な課題で、このまちは合併していることと、小さなまちだということで、近隣の広域で考えた場合の行政サービスを思い切って見直していくことでお金を捻出し、将来活用できる他のものにしていくというようなことも考えていかなければいけないと思います。西東京市の産業振興予算は、この辺で一番低くて0.26パーセントくらいです。圧倒的に産業振興にお金を使っていません。お金がないのにその予算幅も狭いとなると、がんばれと言ってもがんばれないのではないかと思います。

あと、昨日公民館のイベントで講師を頼まれて、柳沢公民館で話しをしました。公民館が創業支援のセミナーをやっています。そういうことは意外とあります。でも創業支援の担当に聞くと、このまちはなかなか創業支援が難しいと言われます。計画を作る時に、例えば子育ての支援となると、子育て支援課、保育課、子ども家庭支援課といった担当が決まっているような計画になります。産業振興とか市民活動の担当とか、教育委員会みたいなどころに入ってきていただけると、施策の厚みが出てくるのではないかと感じました。

○坂口委員：

中間のまとめそのものは良くできていると思っておりますが、若干気になる点をお伝えします。まず、「はじめに」というところは基本的にはこういうことだろうなと思っております。ただ、特に人口減少克服と地域活性化の二本柱を受けて西東京市がやることをもう少し明確にした方がいいと思います。このまちはもっと自信を持って、このまちのことを知らないと損ですよというようなポジションでいいと思います。

「課題認識」については、これはこれでいいのではないかと思います。おそらくデータをベースに、まとめられたのではないかと思います。

次の「ポテンシャル」は、本市のという言葉を入れないと、何のことかよくわかりません。このページが非常に唐突に感じます。ここはもっと魅力的な言葉、表現があるような気がします。少し弱いと思います。このまちに住んだらとてもいいぞ、というニュアンスが伝わってこないと思物足りないと思います。

「戦略の基軸」については、こういうことだろうと思っております。推進にあたっての方向性は、ポテンシャルを伝えるための因子がこの3つだと思っております。次の目標の4つにつながる部分だろうと思っております。

問題は次の、「戦略推進のための共通の視点」です。これはよくわかりません。おそらく、最後の結びで掲載した方がいいのではないかと思います。入れるなら最後のページという感じがします。

私は、このまちの持ち味をどうしようかと色々な観点から捉え、今日のこの結論が出てきたのは、第一段階だと思っております。今度は市民にどう伝えていくか、地元の人に、地域外の人にどう伝えていくかということ。次はマーケティングコミュニケーションだと思っております。コミュニケーションをどうしていくかが全く入っていないと思っております。伝えることがものすごく大事です。他の地域と違って西東京市はこれだけ魅力がある、ポテンシャルがあると言っているのだから、伝えなければだめだと思っております。西東京市はコミュニケーションテクニックが弱いから、せつかく魅力が多くあるのに、市内外に伝わっていないのではないのでしょうか。

○小関座長：

皆様からご意見をいただきましたが、改めて何かございましたらお願いします。

○土埴内委員：

質問ですが、今回新しい三本の矢で、一億総活躍社会という言葉が出てきています。市では、何かお考えになっていることはありますか。

○事務局：

まだ詳しい情報を確認していませんが、戦略を進める上では関連するのではないかと思います。今後、動向を見ながら対応したいと思います。

○土埴内委員：

先程もいわゆるアクティブシニアの活躍みたいな話もありました。あの用語は好きではありませんが、総活躍という中に、そういうことを入れていく流れになっていくのかなという気がしています。

○西委員：

その関連でもう1点、私から資料をご提供させていただいた「健康寿命延伸産業創出推進事業」ですが、2番の健康・安心・快適にくらすの中の、健康まちづくりの推進で

活用いただければと思います。平成 26 年度からこの事業を実施しています。健康寿命を延伸するための産業の振興と、病気になる前に健康を維持しましょうという需要側、国民の側の健康投資の促進を同時に進めて健康長寿社会を実現しましょうということで、今年度は 2 ページ目以降にある 61 件の応募に対して 27 件が採択になっています。NPO とか市民活動の方の活躍活用もこの委員会で議論されていたと思う。NPO の方でこういったものを実施されるような方を、健康福祉部等でつかんでいらっしゃるようでしたら、一度参考にしていただいてもいいのかなと思ってお持ちしました。私どもは、タニタ食堂のタニタさんともおつきあいがあります。タニタさんの方では、個別の自治体の課題ごとに健康延伸のための色々なご支援をされているということなので、ご興味がございましたらおつなぎできます。ご検討いただければと思います。

○土堤内委員：

一億総活躍の中に、介護離職ゼロがあります。介護離職ゼロにするのはとても大切なことですが、そもそも介護者を減らすというもう 1 つの話があります。今の話はそれにかかなり貢献する話なので、そういうシナリオの位置づけはあると思います。

○有賀委員：

「20 分ですむまち西東京市」という資料を作りました。これは私が声をかけた市民 8 人のチームがあって、そこで作っています。会社の社長、専務、NPO の事務長とか若手起業家、都心に勤めている一流企業のサラリーマン、主婦、そんなメンバーがいて、何度かミーティングをやって出したものです。その中から出てきたものがポテンシャルにつながるかもしれません。

まず、20 分ですむまちはどんなまちかという、皆さんが気に入って住んでいて、20 万人がいます。困っている人が少ないのではと 2 番目に書きましたが、そこそこ満足して生活しているんじゃないかなと思います。そこそこ満足している方がいらっしやって、それは日常と非日常のバランスがいいのではないかなと思いました。右の枠内にはどんなデータを取れば表現できるかということで書きました。

資料をめくっていただいて「20 分でアクセスのまち」これは改めて気づいたけれど、日常は市内の徒歩圏ほぼ 20 分で生活できます。スーパー、コンビニ、病院、小中学校、公園、駅などがあるというようにコンパクトシティとして市内外のアクセスがすごくいいのです。市内から 20 分圏内で新宿、池袋、吉祥寺、大泉も行けるし息抜きに東久留水の湧水にも行けます。日常、非日常は 20 分という単位で動いています。それはいいところなのでポテンシャルだと思います。

それをどう伝えるか、知らない、見逃していた、関心がない、よくサイレントマジョリティといいます、多くの方は関心がありません。ただ、関心があることには動きません。コスモス商品券にはあんなに列ができて、買えない人がたくさんいるように、興味を持てば行きます。そうするとただの情報伝達をしても伝わりません。それをどう伝えるかということで、右側の枠内の提案として伝え方を考えることがすごく必要だと思います。そこで必要なのはプロデュース的な思考になります。ただ何かをやりたいという市民ではなく、どう作っていくかという思考を持っている市民との協働が必要になります。それは、誰に伝えるかを絞って実践して繰り返します。

その次のページは良いところを伸ばす、ここに住んでいて良かった、住みたい人が来る、これは子育て支援のことです。社会増から言って、ここに子育て世代、プレママやプレパパも入れるので私は「世代」でいいと思っていますが、伝え方が重要で、その伝え方には SNS も含むし、色々な媒体を使います。ネウボラというのがあり、和光市でも取り入れていますし、流山市だと「母になるなら流山」というのがホームページのトップに出てきます。

それから創業支援があります。創業支援はあまり大きなことをやろうといっても難しいので、小さな個人でやれる仕事などをやれるように考えます。様々な機関、団体などがそのために連携して協働していくことが必要だと思います。連帯を広げるためには民間の活用、協働、地域間連携、広域連携などがあります。市役所内の部署間連携はすごく重要だと思っています。

それから子育てに関する財源では、西東京市の育成料は来年から50パーセントアップします。それは子育てに使うと決まってアップするので、子育てに使うお金はあります。ネウボラみたいな形にするとか、イクボスを宣言して子育てをやっていくとか、コワーキングスペースや気軽に集えるスペースを作っていきます。

そして、吉祥寺エクスプレスです。吉祥寺にみんな行こうという話になりますが、吉祥寺に行くためにノンストップバスを出します。その駐車場スペースを東伏見公園あたりに作って、そこにマルシェを作って、市内の色々な物をそこで売れるようにするのです。そして吉祥寺から帰ってきた時に農産物や商業製品とか農産加工品をそのマルシェで買って帰るということを考えています。これはアクセスのいいまちを表現する方法として考えています。多摩六都科学館、スカイタワー西東京あたりも人が来るので、それを更に使ってもいい。

最後のページは、まちの魅力を伸ばす、市民が魅力を知る、地元を知るということで、東大は高齢者の農業体験とか色々やっています。それは田無病院や辻料理学校が協力しています。東大は高齢者のことを国家プロジェクトでやっているなので、その西東京版を作るとか、多摩六都科学館もあるし、神社仏閣の歴史を知っていく。最近神社に大きな絵馬ができて、うまく行けば市の誇りにつながります。それを伝えるジェイコムもあり、FM西東京もあります。最後はこのまちをプロデュースする、情報の収集・発信・活用・まとめになります。発信力にはプロデュース力がある既存のメディアだけではなくて、スキルある市民との協働が必要だと思います。そしてメディアミックスし、ジェイコムやロコミで個人へ伝わっていくことを考えています。参加したくなる会合、イベントは考える必要があります。ニーズや対象を考えた会合をやっていきます。地元のメディア、市民を活用する。プロデュース力のある市民、ジェイコム、タウン通信、ひばりタイムス、タクシーの車内広告、FM西東京といった既存のメディアも使います。すでにあるこのまちの魅力を発信して情報の扱い方を学べる、西東京だからこそこういうことが学べるというのが粋の中であって、市民の力を活用してまちをより良くしていく。個人のつながりでデジタルデバイドの解消はネットじゃ伝わらないとよく言いますが、100パーセント伝わる方法は何もありません。提案としては、サラリーマンが参加したくなる会合とか、スキル、意欲ある退職者や現役市民との協働、それから自分たちのまちをプロデュースしたい市民を活かしたチームを作って何かをやる。そういうことをやっていって、メディアという物を学べるまちにする、そうしたら住みやすいまちになるのではないかと、そんなことを考えています。

○小関座長：

委員の皆様からは、総合計画と総合戦略の関係性についてのご意見のほか、市への愛着を高めるという視点から納税者の満足度の高め方についてのご意見、また、財政が厳しい中で市民の知恵や力といったネットワークをどう使っていくかというご意見、また、戦略ができあがった後の市民への周知についても工夫が必要だろうというご意見、そのほか多くのご意見をいただきました。

全体的には、西東京市の個性や特徴を明確にしないと、市民の方にもうまく伝わっていないという趣旨のご意見と受け止めています。

それでは、議題5に移ります。その他について事務局より、何かありますか。

議題 5 その他

○成田委員：

先程、今回の全体の取組でお金の話がありました。ふるさと納税は寄付金ですが、夕張市では「幸福の黄色いハンカチ基金」ということで、寄付金の使途を市民が選択できる仕組みとなっています。西東京市も例えば、資料 3 の 8 ページの基本目標体系が 1~4 あるので、市民にどれか選択丸してもらってもよいと思います。私は「3-1」に丸をつけたいといったように、基本体系を 1 パーセント納税のリクエストの対象としてみるなどの検討をされてもよいと思います。

○土堤内委員：

定着するということは、自分が参加するかどうかということにもものすごく関わってきます。支持率の重要性はそこだと思います。よく言いますが、税金を取られるものから納めるものにどうやって変えるかということだと思います。

○事務局：

次回懇談会について、明年 1 月の開催として、具体的な日程は後日調整させていただきます。今日いただいたご意見を事務局の方で検討し、まとめましたら、皆様にメール等でご連絡させていただきます。引き続きよろしくお願いいたします。

○小関座長

以上で、本日の会議を終了させていただきます。

以上